

2015 年度成果の説明書

(氏名) 大島 登志彦	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項 「・」で関連調査の出張日と内容を記す。 論文・講演等の具体的研究成果は○番号で記す。</p> <p>【I】「蚕糸絹文化の学校教育における効果と将来への継承に関わる研究」 (一般財団法人 大日本蚕糸会からの蚕糸絹科学文化支援事業補助による研究) ゼミナール所属の学生・院生とともに、群馬県世界遺産課が今年度行った県内小中学校対象の絹文化継承プロジェクト（小学校：学校で養蚕を実践してその繭から採れた糸で校旗を作成、中学校：地域の絹遺産・文化の歴史調査）の実践を調査し、その教育効果を客観的に考察することを目的として取り組んだ（当プロジェクトに参加したのは、小学校 44 校、中学校 6 校）。主要考察事項として、小学校は、養蚕体験の期間の改善(期間が夏休みに近かったので繭の形成までを体験できない学校もあった)や、校旗完成の中間工程の体験・見学を導入してほしいことを提案した。また、中学校の歴史調査は、地域の絹遺産や工場跡などの遺跡調査や見学などがほとんど行われず、養蚕農家への聞き取りが主体となったので、より多面的な指導や調査が要望される旨が考察された。研究成果の発表会(下記②)は、当研究成果の発表に加えて、日本絹の里が養蚕体験学習の実践報告をしてくださったほか、大島が蚕糸絹の資料展示を行った。群馬県世界遺産課をはじめ、自治体や蚕糸・交通運輸業界などの要職に就く方々など 50 人以上が参集して下さり、有意義に開催することができた。</p> <p>関連フィールド調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絹文化継承プロジェクトに関わる富岡・藤岡・安中市教育委員会や参加 6 中学校の訪問</li> <li>・6 月 12 日：滋賀県内の現役製糸工場見学（大音特殊生糸組合、伝統工芸・特殊生糸製造）</li> <li>・1 月 21～22 日：四国へのフィールド調査（西予市野村シルク博物館、藤村製糸）</li> </ul> <p>①『蚕糸絹文化の教育効果と将来への継承』報告書（2015 年 3 月、発行） ②「蚕糸絹文化の教育効果と将来への継承」研究発表会（3 月 3 日、高崎経済大学で開催）</p> <p>【II】沼田市からの受託研究事業（地域科学研究所を通して）</p> <p>(1)「沼田市域の路線バス案内」啓発チラシ（A2 サイズ片面カラー）作製業務 (2)「沼田市域路線バス時刻表」（オールカラー32 頁）作製業務 (3)路線バス利用促進検討業務（下記③の報告書でまとめた）</p> <p>表題の(1)～(3)の 3 つの業務を受託させていただいた。前年度の 2 つの業務の継続的研究を進めることと、市民へのバス情報の発信と利用促進を目指すものである。(1)は、9 月の沼須線新規開業にわせて、8 月中に作製した。(2)(3)は、来年度の鉄道・バスダイヤを盛り込んで、年度末に作製した。(3)の報告書では、主に次のような報告・提案を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.利根中央病院の移転に伴う市街地－病院間シャトルバス運行の成果と利用実績</li> <li>2.段丘下の沼田駅と段丘上面の市街地間の路線バス運行時間帯拡大の具体的提案</li> <li>3.小型車両で運行される閑散路線の枝路や末端のデマンド運行を提案(定時定路線型)</li> <li>4.利根沼田地域全体の観光活性化に向けた提案</li> <li>5.「真田丸」に関連して、市内観光循環バスと広域定期観光バスの運行提案</li> </ol>	

## 6.視察調査した市町村のバス運行事例を紹介して沼田市での活性化の一端を提案

この業務や調査を通して、群馬県全体の路線バスの実態や情報資料の必要性を認識し、地域貢献と筆者自身の研究素養を深められたと考える。

関連フィールド調査(当研究で直接考察した調査。バス利用促進の全般調査は[IV]に記載)

- ・沼田市の職員と同行した視察調査=安曇野市と長野市

2月15日：安曇野市のデマンドバス（主な特徴と利用状況）

2月16日：長野市の各種委託路線バスの資料収集と関係施設の見学

- ・2月25日：上松町と木曾町の路線バス運行情況調査

### ③「沼田地域における路線バスの利用促進と利便の向上に向けた研究と提案」報告書

(2016年3月、高崎経済大学経済学部教授 大島登志彦)

## [Ⅲ] 上記[I][II]以外の受託研究業

### (1)「バス・タクシーで巡る群馬の旅」監修業務

群馬県の観光キャンペーン期間(10~12月)に合わせて、観光物産課が企画・作製した公共交通を乗り継いで観光周遊して温泉に宿泊するモデルコースを紹介した冊子④の監修業務を行った。その業務を通して、地域社会や観光客に後見できたと考え、大島自身、群馬の地域交通の課題を新たに認識し、今後の研究に生かすことができた。

関連フィールド調査

- ・群馬県内各所の路線バス運行情況やバス停の時刻表示確認の現地調査を随時行った。
- ・軽井沢周辺及び妙高・上越市内などの観光客の動向とバス運行の調査(9月3~4日)。

### ④「列車やバスで行くとおきのぐんまを巡る旅」(9月完成)

### (2)「中山間地域における温泉と間伐材を活用した地域資源循環型農業モデル構築の実証」の一部業務の分担(みなかみ地域活性化研究会、㈱アイ・ディー・エー主導)

研究のフィールドである猿ヶ京温泉周辺において、プロジェクトで行う農業の視察のほか、三国峠のハイキングや新潟県境湯沢町の歴史遺産見学も含めたモデルツアーを企画して、10月31~11月1日に実施した。また、年度末に、地域の公共交通やそのフリー切符などを紹介して、バス利用促進と活性化、農業と観光を連携させたモデルツアーなどを含めた提案レポート⑤を、当事業全体の報告書の中で盛り込んだ。

### ⑤「みなかみ地域の農業と観光の連携による活性化に関する研究」

## [IV] 平常の研究活動と本学地域科学研究所のプロジェクト分担研究

### (1) 交通地理や産業遺産・鉄道文化財などの観光振興に関する研究成果

公共交通の方向性や運賃、コミュニティバスやデマンドバスについて、多種多様な方式などを提示しながら、長短所を考察し、そのあり方などを考察した。また、群馬及び周辺の産業遺産とりわけ鉄道文化財の現況と活性化を事例研究し、安中市で碓氷峠鉄道遺産に関わる講演の機会⑥を得たほか、これまでの研究を生かして、本学地域科学研究所のプロジェクトの論著などを分担執筆した⑦⑧。

関連フィールド調査

- ・6月10~12日：小浜市・南丹市や水尾自治会のコミュニティ・デマンドバス等の調査
- ・7月3日：長野県茅野市と原村のコミュニティバスと高原地域巡回バス等の調査

- ・7月5～6日：猪苗代町の鉄道保存事情と会津若松市内及び震災復興地のバス事情調査
- ・12月4～5日：宮城県名取市と利府町のコミュニティバスの調査
- ・1月21～23日：肱川の潜水橋や南国市の戦争遺跡、馬路村の保存森林鉄道などの調査
- ・3月10～12日：尾道鉄道廃線跡の活性化と中国山地におけるローカル鉄道の実態調査

⑥講演会「日本の鉄道発達から見た群馬県内の関連遺産」

(7月18日安中市で開催、鉄道遺産群を愛する会主催)

⑦「群馬県における観光資源としての産業遺産活性化に向けた動向と課題」『観光政策への学際的アプローチ』(2016年、勁草書房)

⑧「新潟県上越地域における鉄道遺産の活性化のあり方と地域公共交通の課題」『高崎経済大学論集』58・4(2016年、中牧崇と共著)

(2) 富岡製糸場や蚕糸絹文化・世界遺産に関わる研究と成果

昨年度行った「富岡製糸場見学者の動向と日本の蚕糸絹文化」に関わる成果報告(⑨)のほか、その成果を基にして、群馬県立日本絹の里の「日本絹の里大学」⑩や、産業考古学会のシリーズ講演会(於:岡山)⑪で講演いただいた。また、本学地域科学研究所の富岡製糸場関係プロジェクト『富岡製糸場と群馬の蚕糸業』においては、講演会での研究発表⑫と著書の分担執筆(⑬)を行った。

⑨「『富岡製糸場見学者の動向と日本の蚕糸絹文化』に関わる調査報告」『シルクレポート』No.42. 2015年

⑩「日本の蚕糸業の動向と『富岡製糸場と絹産業遺産群』世界遺産登録の意義」(2015年7月25日、日本絹の里大学における講義)

⑪産業考古学会「近代化遺産」シリーズ講演会(産業考古学会40周年記念の講座)

・1月23日：「『富岡製糸場と絹産業遺産群』の世界遺産登録と日本の蚕糸業」

・3月12日：「近代化遺産の文化的価値と保存・活用」(シンポジウム)

⑫「製糸工場の盛衰にみる産業考古学からのアプローチ」(地域科学研究所研究報告会)

⑬「製糸工場の盛衰にみる産業考古学からのアプローチ」『富岡製糸場と群馬の蚕糸業』(2016年、日本経済評論社)

(3) 『交通新聞』の「交通評論」欄に連載

・2015年5月19日「時刻表に学ぶ鉄道史」、・2014年7月21日「バスの案内と情報資料」

・2015年10月6日「世界遺産への二次交通」、・2015年12月21日「急行列車の思い出」

・2016年3月16日「日本初の地下鉄・仙台」

(4) 日本交通政策研究会の研究プロジェクト

「地域交通の維持、活性化に向けたモード間連携の在り方プロジェクト」研究に参画  
交通地理学・交通経済学の分野を主体とした地域公共交通研究者が集まって、毎回2～3人の研究発表を通して、各地の事例を情報交換してきた。各々の長短所を考察して、路線バスの利用促進に向けた提案を行っている(年度内3回の研究会)。

以上、○の論著は、『』に著名・「」で分担執筆題目を記載し、論文は「」に題目・『』に雑誌名を記載し、特記以外は単著である。講演等は「」で題目を示し月日を記載した。出張は、学内研究費と上記Ⅰ～Ⅲの各枠組み予算で進めたが、執行時期・残額に応じて、別の予算枠で出張したものもある。

## 2 その他の事項

- [I]大学院生の学会発表や論文指導と学生・院生を引率したゼミナール報告書の作製等
- ・大学院博士後期課程院生(石関正典君)に対する下記学会発表に向けての指導  
「世界遺産・富岡製糸場見学者の観光動向と蚕糸絹文化振興に向けての課題」  
(2015年7月12日、日本地域政策学会にて大島と連名で発表)  
「群馬県における路線バスの盛衰と諸問題」  
(2016年2月28日、群馬県地域文化研究業議会で発表)
  - ・ゼミナール卒業論集「地域調査研究論集第15号」の編集(2016年2月9日発刊)
- [II]外部から委嘱された社会活動等の業務
- ・伊勢崎市コミュニティバス検討委員会(委員長、委員会2回開催:4月24日、5月22日)
  - ・前橋市全地域デマンド化研究会委員(2012年5月18日発足、副代表)  
第9回研究会議(7月29日)  
前橋市公共交通マスタープラン計画推進調整会議(9月24日)  
前橋-榛東・吉岡間バス路線(3市町村共同委託バス路線)の再編に向けた協議
  - ・群馬県タクシー準特定地域協議会会長(特定地域に指定された2009年10月協議会発足)  
2014年1月準特定地域に移行(同時に協議会の会長、同年3月5日協議会開催)  
2015年5月11日:第2回中・西毛交通圏タクシー準特定地域協議会  
2015年5月29日:第2回東毛交通圏タクシー準特定地域協議会  
2015年度を通して群馬運輸支局やハイヤー協会との制度や活性化に関わる協議
  - ・群馬県立歴史博物館外部検討委員会委員(2014年11月~16年3月、近現代担当)  
(同館の休館・全面改修に際して、展示方法や展示物を多角的に検討する委員会)  
全体検討会:館の展示全体に関わる検討や部会相互の調整(計4回)  
(5月1日・8月7日・11月6日・1月19日)  
個別検討会(近現代):具体的展示物検討(計8回)  
(5月22日・6月5日と22日・7月13日・8月4日・9月25日・12月17日・3月29日)
  - ・旧太子駅復元整備推進委員会委員長(中之条町、11月2日に委員会と現地見学)